

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
中央工学校 O S A K A	昭和61年3月31日	中野 吉晟	〒561-0872 大阪府豊中市寺内一丁目1-43 (電話) 06-6866-0800			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 中央工 学校	昭和39年3月27日	堀口 一秀	〒114-8543 東京都北区王子一丁目26-17 (電話) 03-3906-1211			
目 的	工業分野に従事しようとする者に、企業との連携の上で実務性の高い専門知識及び技術・技能を修得させるとともに志操堅実な技術者を育成する事を目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課 程	建築CGデザイ ン科	2年(昼)	2,698単位時間 (又は単位)	平成20年文部科学 省告示第11号	
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,052単位時間 (又は単位)	1,612単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	34単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	28人	2人	29人	31人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 (有) 無) ■成績評価の基準・方法について 試験、実習、出席学習態度の総合 的評価		
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月1日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■春 季：4月1日～4月10日		卒業・進級条件	履修すべき全科目に合格 卒業課題の提出・合格 履修期間の出席率が80%以上 所定の費用を全納している		
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無) ■長期欠席者への指導等の対応 補習授業等		課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動 (有) 無)		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 建築・インテリア業界 ■就職率 ^{*1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{*2} 71.4% ■その他(任意) (平成28年度卒業者に関する平成29年3月時点の 情報)		主な資格・検定	建築士受験資格、建築施工管理技士受 験資格、CAD利用技術者検定、福祉 住環境コーディネーター、色彩検定 他		

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 7名 ■中退率 33.3%</p> <p>平成28年4月1日在学者 21名（平成28年4月入学者を含む） 平成29年3月31日在学者 14名（平成28年10月転科者、平成29年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 学習意欲低下、進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 担任面談による指導、入学前の進路確認、保護者懇談会</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.chuoko-osaka.ac.jp/</p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

専門学校の目的は「職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教育の向上を図る」ことにある。本校は、建築系専門学校として100年余の歴史と伝統のある中央工学校のグループ校で、工業技術教育を行う専門学校として技術者の育成を行っているが、広く社会の要請に応じた組織的な教育を行うためには、企業等との連携は欠かせない。専門課程の教育内容に適した企業との連携により、実践的な職業教育水準の維持向上に努める。特に教科構成や実習・演習の実施、教員研修について、企業等の意見を反映させるように取り組む。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
小松原 学	富士教育訓練センター校長
猪木 陽子	一般社団法人関西インテリアプランナー協会副会長
堀越 保幸	日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社 建設事業部技術部建築設計技術グループ長
山田 恭子	パナホーム株式会社営業設計部営業設計企画室リーダー
内田利恵子	建築設計室Morizo代表
沖 清忠	インカー・ドローイング株式会社マネージャー
田尻 元子	株式会社ジー・プラン設計室室長

(開催日時)

- 平成27年度 第1回 平成27年 9月30日(水) 18:15~18:50
- 第2回 平成28年 2月12日(金) 14:55~17:30
- 平成28年度 第1回 平成28年 9月30日(金) 18:30~19:10
- 第2回 平成29年 2月10日(金) 15:00~17:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実習・演習等は専門学校教育の根幹をなす重要なものである。よって、常に最新の技術を指導する必要があり、そのために学校と企業等が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育となるように努める。

連携を行う企業とは、雇用契約書を取り交わし、契約の趣旨に則り実践的な職業教育を行うものとする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
建築・インテリアデザイン演習	色彩・レイアウト等グラフィックデザインの基礎を理解させ、建築・インテリアのプレゼンテーションにおける図面・ボード・ドキュメント等のデジタルによる表現方法を習得させる。	コラムデザインセンター ナカヒラアーキテクト
CAD演習	現在の建築技術者にとってITスキルは不可欠であるため、その一つとしてCADによる図面作成技術を業界で最も使用されているソフトを用いて習得させる。	コラムデザインセンター ナカヒラアーキテクト
ベーシックデザイン演習Ⅰ	さまざまな単位空間をコンセプトワークによって創造させることにより、イメージの空間化やプレゼンテーションの能力を養う。	岡建築デザイン事務所 東部淳一建築設計室
レンダリング演習Ⅰ	立体・空間の表現技術や図法・絵画技術を習得させる。	岡建築デザイン事務所 Atelier-NAG
建築設計演習	敷地調査からコンセプトをまとめるための資料収集、エスキス、図面作成、模型等を通して、クライアントに対する自己表現の方法や、プレゼンテーション手法などを習得させる。	1級建築士 A. S. A. P. design Lab.

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校の教育職にあるものは、各自が担当する授業の分野に応じ、企業等と連携の上で高度化、多様化する理論及び新技術等について研修に努めなければならない。

校長に承認を得た者は企業等と連携の上で、校外研修(長期研修・短期研修)及び特別研修を行うことができる。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
小松原 学	富士教育訓練センター校長
猪木 陽子	一般社団法人関西インテリアプランナー協会副会長
堀越 保幸	日鉄住金テックスエンジニア株式会社 建設事業部技術部建築設計技術グループ長
山田 恭子	パナホーム株式会社営業設計部営業設計企画室リーダー
内田利恵子	建築設計室Morizoー代表
沖 清忠	インカー・ドローイング株式会社マネージャー
田尻 元子	株式会社ジー・プラン設計室室長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: www.chuoko-osaka.ac.jp

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページ・教職員会議にて平成28年度教育基本方針を配布

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築CGデザイン科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次 学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実 験・ 実習・ 実技
	○		カラーコーディネーター	文部科学省認定のA・F・T色彩検定2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	1 前後	106		○		
	○		カラーコーディネーター	文部科学省認定のA・F・T色彩検定2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	2 前後	106		○		
	○		福祉住環境コーディネーター	東京商工会議所認定の福祉住環境コーディネーター2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	1 前後	(106)		○		
	○		福祉住環境コーディネーター	東京商工会議所認定の福祉住環境コーディネーター2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	2 前後	(106)		○		
	○		IT利用技術	社団法人コンピュータソフトウェア協会のCAD利用技術者試験2級に合格できる能力を身に付けさせる。	1 前後	(106)		○		
	○		IT利用技術	社団法人コンピュータソフトウェア協会のCAD利用技術者試験2級に合格できる能力を身に付けさせる。	2 前後	(106)		○		
	○		建築施工管理技術	2級建築施工管理技術検定試験を合格を目標にして、入学してから学習した建築全般(計画・法規・構造・施工)の知識の総復習を行う。	2 前後	(106)		○		
	○		管工事施工管理技術	2級管工事施工管理技術検定試験の合格を目標に管工事に関する基礎知識、専門知識、施工管理、関係法規について修得させる。	2 前後	(106)		○		
○			数学	建築に必要不可欠な数学の基礎を確実なものとし、数学的思考方法を身に付けさせる。	1 前	36		○		

○		建築・インテリア概論	建築・インテリアの各分野に携わる実務者による講義を通して、建築・インテリア業界の概要、現状を理解させる。	1 前	36		○		
○		建築史 I	日本建築及び西洋建築の発展過程を理解させ、建築技術者に必要な建築的知識を身に付けさせる。	1 前	36		○		
○		構造力学 I	建築物の骨組みに作用する反力の働きを理解させるとともに、部材内に流れる力（応力）の求め方を習得させる。	1 前	36		○		
○		建築構造 I	各種構造の概要を理解させ、設計等の実践に対する応用力を養う。	1 前	36		○		
○		建築・インテリア基礎製図演習	木造における一般図や詳細図の基本事項をトレースを通じて習得させ、製図技法や表現能力を身に付けさせる。	1 前	144			○	
○		建築・インテリアデザイン演習	色彩・レイアウト等グラフィックデザインの基礎を理解させ、建築・インテリアのプレゼンテーションにおける図面・ボード・ドキュメント等のデジタルによる表現方法を習得させる。	1 前	72			○	
○		CAD演習 I	現在の建築技術者にとってITスキルは不可欠であるため、その一つとしてCADによる図面作成技術を業界で最も使用されているソフトを用いて習得させる。	1 前	72			○	
○		ベーシックデザイン演習 I	さまざまな単位空間をコンセプトワークによって創造させることにより、イメージの空間化やプレゼンテーションの能力を養う。	1 前	72			○	
○		レンダリング演習 I	立体・空間の表現技術や図法・絵画技術を習得させる。	1 前	72			○	
○		建築計画 I	日常生活と建築との関わりについて考えさせるとともに、建築計画を進めるための基本事項を理解させ、過去の作品例を分析しつつ、未来に対応できる建築家としての能力を養う。	1 後	34		○		
○		建築計画 II	日常生活と建築との関わりについて考えさせるとともに、建築計画を進めるための基本事項を理解させ、過去の作品例を分析しつつ、未来に対応できる建築家としての能力を養う。	2 前	36		○		
○		建築構造 II	各種構造の概要を理解させ、設計等の実践に対する応用力を養う。	1 後	34		○		

○		建築・デザイン史	日本および西洋の近代建築史・現代建築史の発展過程と設計理論を学習し、建築技術者に必要な建築的知識を身に付けさせる。	1 後	34		○		
○		建築材料	建築物の設計、構造計画、施工のために必要な建築材料の基本的な性質等について理解させるとともに、設計製図、一般構造等との関連性を重視し、より適正な材料の使用方法を習得させる。前半は構造用材料、後半は非構造用材料（内外装材・機能材料）について講義する。	1 後	34		○		
○		建築設備	建築設備の役割及びその種類・構成を理解させ、地球環境問題・建物の省エネルギーとの関わりについて急速に変化する社会情勢を考慮しながら、それぞれの設備について理解させ、建築計画に応用させる能力を養う。	2 前	36		○		
○		環境工学	快適な室内環境をつくり出すために必要な空気、熱、光、音等の環境要素について基礎的知識を理解させる。	2 後	34		○		
○		構造力学Ⅱ	静定構造物の応力算定及び応力図の描き方を理解させる。	1 後	34		○		
○		構造力学Ⅲ	構造力学Ⅰ・Ⅱで学んだ静定構造力学の知識を基本にして、不静定構造物の反力、応力の求め方を理解させる。	2 前	36		○		
○		構造設計	構造力学と構造計画の関連を理解させ、建築計画やデザインにどのように反映されているかを習得させる。	2 後	34		○		
○		建築法規	建築基準法の概要を理解させ、建築法規と建築デザインの関わりについて考える力を養う。	2 前	36		○		
○		建築施工	各種仕上げ工事の施工法及び「施工技術とインテリアデザイン」、「施工法と仕上がり」の関係について理解させ、施工の重要性、面白みを実感させる。また、内・外装材を中心にした実例による演習により、コスト感覚を養い、積算実務の基礎を習得させる。	2 前	36		○		
○		建築積算	建築における建築積算の重要性を認識させるとともに、実務に即応できる積算技術と積算価格の構成技術を習得させる。	2 後	34		○		

○			建築総論	1年次、2年次前期の内容を整理させるとともに、建築に関連する研究や見学等を通して、広く社会に目を向けた新しい空間提案のあり方を習得させる。また、現在活躍している建築実務家の作品・講義等を通じて、「建築とは何か」、「建築する行為とは何か」、「建築家はどうか」等について理解させる。	2 後	68		○		
○			建築製図演習	製図の基礎やCAD技術について理解を深めさせ、より早く正確な図面を作成できる能力を養う。	1 後	136			○	
○			建築設計演習	敷地調査からコンセプトをまとめるための資料収集、エスキス、図面作成、模型制作等を通して、クライアントに対する自己表現の方法や、プレゼンテーション手法などを習得させる。	2 前	144			○	
○			CG・DTP基礎演習Ⅰ	パソコンの起動、終了、保存、移動、禁則、マウス・キーボードの操作、基本用語、PC各部の名称等の基本操作からメール・インターネットの操作方法、3次元CADの基本操作、レンダリングソフト、グラフィックソフトに至るまでの各アプリケーションの技術を習得させる。	1 後	68			○	
○			CG・DTP基礎演習Ⅱ	グラフィックソフトのスキルを使い、デザインの社会で通用する技術や知識を習得させる。また、空間デザインに欠かせない、色、素材、形をイメージできる表現力を育成する。このほか、デザインの制作目的を明確化し、表現すべき内容を正確に捉える力や、求められる情報をクライアントに届けられるコミュニケーション能力をグラフィックデザインを通して養う。	1 後	68			○	
			CG・DTP応用演習Ⅰ	実務に沿った流れでCGパースを作成させ、CGの活用方法を習得させるとともに、デザインを最大限アウトプットする能力を身に付けさせる。	2 前	72			○	
○			CG・DTP応用演習Ⅱ	CGソフトの基本操作から、3dsMAXを使ったCGパース製作技術やPhotoshopによるテクスチャマッピングとそのバリエーション制作手法を習得させる。	2 前	72			○	
○			デジタルプレゼンテーション演習	空間の立体感、質感を正確で魅力的にデジタル表現させ、個性、迫力、存在感のあるボードを作成できる能力を養うとともに、最新のソフトの操作技術を習得させる。	2 後	68			○	

○		模型制作実習	模型の制作方法を習得させ、CGだけでは補えない空間構成を模型を理解させる。	2 前	72			○	
○		ベーシックデザイン演習Ⅱ	さまざまな単位空間をコンセプトワークによって創造させ、コンセプト力やイメージを空間化する力、プレゼンテーション能力等を養う。	1 後	68			○	
○		レタリング演習Ⅱ	アナログ（手描き）からデジタル（CG）へのつながりについて、理解をさせる。	1 後	68			○	
○		測量実習	建築測量の目的・意義・方法を理解させるとともに、器具の取り扱い方、測量方法、データの整理方法等について習得させる。	2 後	34				
	○	卒業制作（CG設計/CG制作）	今までに履修した各科目を総合して、各自の知識・技能を十分に発揮した、独創性のある計画内容と表現技法を習得させる。	2 後	136			○	
	○	空間デザイン演習（CG設計）	空間計画の基本となるプライベート空間のとらえ方やパブリック空間の構築手法を理解させる。	2 前	72			○	
	○	デジタルデザイン演習（CG制作）	クライアントに対しての自己表現の方法論等を理解させる。	1 後	(72)			○	
	○	トータルコーディネーション演習（住空間）	住まい手の個性やライフスタイルをインテリアデザインを通して、住まいのあり方を提案できる力を養う。	2 後	136			○	
	○	ショッププロデュース演習（商空間）	商業施設の高度な企画・計画力、及びプレゼンテーション能力を養う。	2 後	(136)			○	
	○	商品プロデュース演習（家具・照明）	イメージに合うエレメントを選択して、素材・色・形がどのような影響を及ぼすのかを、モデルやボードを作成して実感させ、商品をよりよく、魅力的に見せるための技術を身に付けさせる。また、多様なバリエーションを理解させ、効果的に空間を演出する技術を養う。	2 後	(136)			○	
○		アッセンブリーアワー	学校行事やクラス運営に関する事項の伝達ほか、学生が充実した学生生活を送れるように支援する。また、学生の進路の自己実現に向けての自主性を育成するとともに、組織的、継続的な学習や各種小テスト等を通して、学生一人一人の進路の自己実現が図れるように指導する。	1 前後	70			○	

○			アッセンブリーアワー	学校行事やクラス運営に関する事項の伝達ほか、学生が充実した学生生活を送れるように支援する。また、学生の進路の自己実現に向けての自主性を育成するとともに、組織的、継続的な学習や各種小テスト等を通して、学生一人一人の進路の自己実現が図れるように指導する。	2 前 後	70		○		
合計				61 科目	2,698 単位時間 (単位)			